

外国人のみた日本 台湾人が感じたカルチャーショック (カルチャー・ショック)

著者	洪 財隆, 梶山 貴史[訳]
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	126
ページ	41-41
発行年	2006-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005528

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Hong Tsai-Lung
出身地：台湾・彰化
所属：台湾経済研究院・国際事務處副研究員
日本滞在：2005年7月～10月

台湾人が感じたカルチャー・ショック

洪財隆

日本の交流協会による後援で、ジェトロ・アジア経済研究所に招聘されたため、七月六日から一〇月三十一日までの短期滞在ではあったが、日本に滞在する機会を私は幸運にも得ることができた。

当初、四カ月間の滞在では、様々なことを深く追求できるとは思えなかった。特に、日本のように優美な国に対してはなおさらである。しかしながら私は、他人を思いやる心、美と調和した生活、すばらしい食事という三つの側面から、日本文化にすっかり魅了されてしまった。

先ず最初に、「相手に対し、思いやりや考える余裕をもつ」点について述べてみたい。日本人と付き合ったことのある人なら、誰もが彼らの礼儀正しさに瞬時に驚嘆してしまうであろう。事実、そのような立派なマナーは、日本人の感性には当然のように備わっているかのようだ。それは、日本社会が成熟している証拠であり、また思いやりや寛大さに満ち溢れた、一種のコミュニケーション・シジョンの手段ともいえる。

特に自制、自己犠牲、誠実さなどといった姿勢に日本人がなぜ傾倒するのか、一人の外国人として不思議に思うことがあった。だが、私にとってそれは謎のままであるため、日本人を今後も観察する必要がある。

うだ。一方で、若年層の間では欧米化、個人主義が浸透していると当然のように言われがちだが、感性の点では彼らはあまり変わっていない、と私は断言したい。私が日本で実際に聞き取ってきたことを通して、そのように言えるからだ。

前述したことに加え、あたかもきれいに整えられたかのような美しさにも、私は感銘を受けた。その美しさは日本中の至る所で見られ、視覚だけではなく、感情にも訴えかけてくるようだ。例えばその美しさとは、賞賛に値する立派な庭園であったり、素晴らしい景色であったりするが、とても厳かな雰囲気満ちたため、自然の法則とうまく調和しているかのようだ。

(特に京都にある) 仏教寺院や伝統的な神社仏閣は、概して見事なまでに保存状態が良く、旅行者を常に惹きつける存在ともなっている。伝統的な価値観や信念は、恒久的に私たちの「知性や感性」に存在し続けているのだといえる。

日本国民が誇れるものとして、高度な技術は良く知られているが、それだけではなく、自然に優しい環境を彼らが創造してきたことにも言及すべきだ。現代文明と伝統を重んじる信仰が巧みに融合され、調和の取れたかたちで日本に存在しているのだ。

最後に、日本で食べたすばらしい食事が忘れられないことも取り上げておきたい。生魚(刺身)は種類が豊富で美味しく、また私は、その土地の特産品を特に好んで食べた。魚はどれもカラフルなため、私の食欲をそそった。魚を食べること自体、とても健康的であることは言わずもがなである。更に、スポーツや学術的なセミナーの後に居酒屋に立ち寄ることは、良い体験であった。それから居酒屋では、生ビールがもつてこいである。お腹を満たした後に開放的になれるのは、論理的にもいえることだ。これら三つの側面から、私は日本が好きになってしまった。心から。

「追伸」研究所の同僚、特に私のカウンターパートであった川上桃子氏に心から感謝したい。同氏に親切にいただいたき、今回の滞在は有意義なものとなった。また多くの同僚と、東アジア諸国の知識を存分に分かち合えた。更に、彼らの真摯な眼差しを通じ、近隣諸国に対する理解が一層深まった。そして丁可氏のハイレヴェルな卓球に対し、「教訓」として学んだだけではなく、気分転換としての楽しみを私に教えてくれたことも、最後にここで述べておきたい。

(前海外客員研究員) 訳 榎山貴史